

富士河口湖町立 教育センターだより

No.17

令和2年12月10日

文責 渡辺 富美夫



富士山学習 豊かな教育をめざして 第4回研究員会

12月3日(木)に第4回研究員会が開催されました。今回の内容は、防災アンケート、防災教育プログラム化、体験学習プログラム、富士山科学研究所との連携についてでした。

1 防災アンケートについて

富士山が火山であることは理解しているものの、自分が住んでいる地域における災害の可能性や規模について、さらには災害からどのように生命や生活を守るかの方法については十分な理解が得られていないという課題が明らかになりました。防災意識を高め、大切な命を守るために、学校においては防災学習の実施とカリキュラム化、富士山火山防災に関する学習資料の作成とその活用、防災マニュアルの作成などが考えられます。そのためには、学校、専門機関、行政、地域のそれぞれの役割を明らかにするとともに、連携して取り組む必要があります。



富士山科学研究所
立体地図について説明

2 防災学習のプログラム化

今年度は防災学習の取組を始め、そのスタートとして富士山科学研究所の出前授業が、西浜小において実施されました。内容は、地域の災害として西湖根場地区土砂災害と富士山火山災害についてでした。(詳しくはNo.14参照)今後授業内容を改善していくとともに、富士山火山防災学習を、各学校で教育課程に位置付けていくよう取り組んでいきます。

3 体験学習プログラムの実施について

どの体験学習プログラムも丁寧な指導が行われ、とても充実しているなど高評価を得ることができ、来年度以降の継続実施を望む声が多数ありました。掘抜学習プログラムについては、指導計画の見直しとそれに伴うワークシートの見直しを今後取り組んでいきます。

4 富士山科学研究所との連携について

富士山科学研究所との連携では、河口湖新倉掘抜学習、防災教育、富士山の自然学習、林間学校等お世話になっています。専門的な視点のもと豊富な資料を活用して充実した学習が行えています。今後も連携していく中で一層充実した富士山学習を実施していきたいと考えています。防災学習については、立体地図模型や実験キットの貸し出しを充実していくとのお話がありました。→立体地図模型は各小学校1個ずつ、教育センターへ6個、火山灰実験キットは教育センターへ3セット。

研修として、「自然災害の初動対応について」の学習も行われました。とても良い内容でしたので多くの先生方、保護者の皆様方にも知っていただきたいと感じました。

ここで問題です

○×クイズです。
親子で一緒にどうぞ

- 問題1 富士山科学研究所は、国の機関である。
- 問題2 富士山は、世界自然遺産である。
- 問題3 富士山が噴火したらすぐに逃げなければならない。
- 問題4 富士河口湖町防災情報発信アプリは、防災無線を聞くことができる

- 問題1 × 富士山科学研究所は、山梨県の機関です。
- 問題2 × 世界文化遺産です。富士山-信仰の対象と芸術の源泉と登録され、25の構成資産があります。
- 問題3 × 噴火規模の警戒レベルと噴火口の距離などを基に決まります。
- 問題4 ○他にも気象情報、災害情報、防災マップ、安否確認など様々な情報が入手できます。町HPもしくは広報9月号12Pから、アクセスできます。